

市民力かわら版

第15号
平成22年1月15日
編集/市民力かわら版編集委員会
発行/矢板市秘書政策室
電話：0287-43-1112
ファクス：0287-43-2292
Eメール：
yaita@city.yaita.tochigi.jp



新春座談会 「市民力の明日は？」

市民力の発掘・応援を基本コンセプトにした情報紙（メディア）である「市民力かわら版」も今号で第15号になりました。
新年の節目でもあり、かわら版記者の意見・質問を交えながら、市民力という言葉を提唱された遠藤市長の考えをあらためて伺いたいと思います。

市長 まずはじめに、かわら版が15号を迎えるという事ですが、約二年半にわたって隔月で発行してきた皆さんの努力に敬意を表します。あらためて市民力とは何かという事ですが、この間のかかわら版に掲載されている事そのものが市民力であり、市民の皆さんが、こんなにも多様な活動をしているのだとあらためて思います。
◆閉塞感を払拭する気概を



私は市長になる前は職場と家の往復で、矢板の住民でありながら、矢板の事をあまりよく知りませんでした。でも市長になってからは、矢板の事が全部気になります。中でも一番



気になるのが、「矢板は閉塞感が強い」ということです。「矢板はダメ、何をやってもダメ！」と、周辺の市町との比較の中で嘆きしか聞かない。

「自分の住んでいるまちに誇りが持てなければ矢板の将来はないじゃないか！」
そう思いました。この閉塞感を何とか払拭したい、そのためには市民一人一人が「自分たちのまちを自分たちで何とかしなければ！」そんな気概を持つてもらわなければならないと思いました。
◆まちを動かすのは人の力

突き詰めていくと、一人一人のものの見方、考え方、物事に対する態度の示し方、人生観、価値観の中にまちの未来はあるのだと思います。矢板というまちに対する帰属意識、所属意識がどれだけあるかが問われます。自分が住んでいるまちにどれだけ愛着があるか根本的に問い直したいと思います。
市民力の定義は難しいですが、敢えて言うなら「市民としてよりよく生活していくための問題解決力。課題解決のために自ら取り組



は時間もかかるし難しい。しかし、意識の変革以外にはありません。
なんとか、自分たちの住んでいる町を好きになり、誇りを持てるように。自分の子どもに自信を持って「このまちはいいところだからここに住めよ」といえるまちにしたいものです。

新年明けまして
おめでとうございます
みなさんも今年は「かわら版」
始めてみませんか。取材を通して「矢板再発見」できます！
ぜひ一緒に活動しましょう。
0287-43-1112 (市秘書政策室)